らそうプラスチック

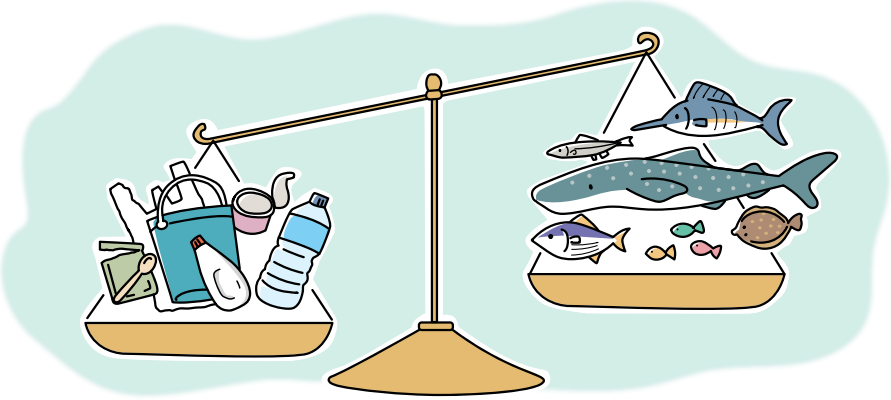
**プラスチックはくらしのあらゆるものに使われていて、
チックがごみとなり、大きな問題を引き起こしています。
未来のためにできることを始めてみませんか。**

海の中のプラスチックが魚の重さを超える？

プラスチックは軽くて丈夫、密封できるといった特性があり、食品の包装などでたくさん使われています。このプラスチックがごみとして適切に処理されず、ポイ捨てされたり風で飛んだりすると、川などを経て海に流れ込むことがあります。プラスチックは波間を漂い続けながら細かく砕けますが、自然の中では分解されず、数百年にわたり海の中に堆積。魚や鳥がえさと間違えて飲み込むこともあり、生態系への影響が懸念されています。

世界では20年前の約2倍のプラスチックごみが発生し、毎年約800万トンものプラスチックがごみとして海に流れ込んでいると考えられています。2050年には、海の中のプラスチックごみの量は世界中の魚の重さを超えるかもしれない、との予測も発表されています。

※世界経済フォーラム2016年報告書より



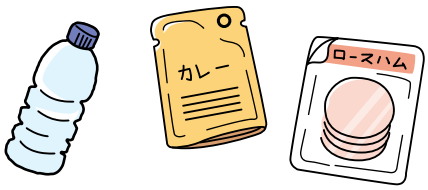
プラスチックの

困ったところ

- 自然の中で分解されないので、適切に処理する必要がある
- 石油から作られているため、燃やすと地球温暖化につながる

便利なところ

- 軽くて丈夫、携帯に便利
- 密封でき、中身の品質を保つことができる
- 透明性があり、さまざまな色や形に加工できる



未来へつなごう

未来へつなごう 海の豊かさを守ろう

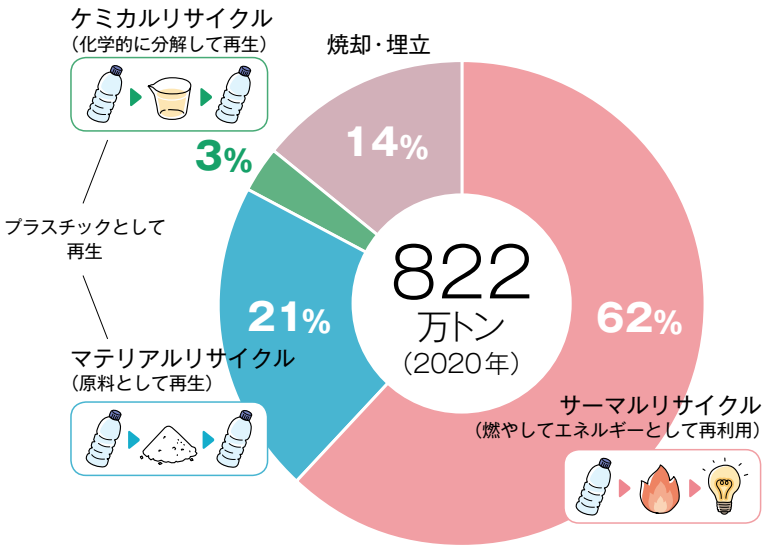
知って減

ペットボトルや食品のパッケージ、レジ袋……。生活に欠かせません。しかし今、大量のプラスまずはプラスチックのことを知り、

プラスチックとして生まれ変わるのは24%

プラスチックごみを減らすため、日本では2020年7月にレジ袋の有料化が義務付けられ、さらに今年4月からはお店などでのプラスチック製スプーンやフォークなどの提供方法を見直すよう義務付けられました。使ってすぐ捨ててしまうプラスチックを「減らす」取り組みが進められています。

日本では年間822万トンものプラスチックごみが排出されています。「だけど分別しているし、リサイクルされているんでしょ？」と思う人も多いのでは。実は、プラスチックとして再生されるのは約24%で、残りの大半は燃やして熱エネルギーとして再利用する「サーマルリサイクル」です。石油から作られているプラスチックは、燃やすと大気中の二酸化炭素（CO_2）を増やすことになり、地球の気温上昇につながります。プラスチックごみの問題は、地球温暖化の問題でもあるのです。



日本のプラスチックごみの排出量

一般社団法人プラスチック循環利用協会
「プラスチックとプラスチックのリサイクル」より作成

みんなでプラスチックごみを減らそう！

プラスチックの利用を減らし、海の生きものくらしを守るため、世界共通の目標である「SDGs（エスディージーズ）（持続可能な開発目標）」では「海の豊かさを守る」ことを掲げています。プラスチックごみを含むあらゆる海洋汚染を防止し、かつ大幅に削減することを目指しています。

普段のくらしの中で、私たち一人ひとりがプラスチックを「減らす」「再利用する」そして、時には「いらない」と断ることも、必要ではないでしょうか。

次のページから、プラスチックを減らすためのアクションを紹介します！

5つの「R」でプラスチックを減らそう

プラスチックごみを減らすためのアクションは、実はたくさんあります。よく言われているのは「3R」。まずは使う量を「減らす」こと、そして使った場合はなるべく「再利用する」こと、使用後は「リサイクルする」こと。さらにコープデリで進めているのが、そもそもプラスチックの使用を「断る」こと、使う場合は「再生可能資源の活用」を考えること。この2つを加えた「5R」を呼びかける「コープデリのエコ活」で、プラスチックの削減を目指しています。

皆さんも、「これならできそう」というアクションを探してみませんか？

ACTION!

Reduce（リデュース）

減らす

コープの取り組み

CO・OPミックスキャロットなどの飲料のパッケージを、ペットボトルから紙パックに変更しました。ほかにも、ペットボトルの重量を減らしたり、ラベルフィルムをなくすなどプラスチックを使う量を減らしています。

私たちができること

- 買い物の際はノントレーの商品を選ぶ

- 食品の保存はふた付き容器を使い、ラップの使用を減らす

ACTION!

Reuse（リユース）

再利用する

コープの取り組み

ボディソープなどのつめかえ容器として、ボトル部分にリサイクル樹脂を100%使用した「つめかえボトル」を発売しました。今後、ボトル入り商品を順次パウチや紙パックに入った商品に切り替えます。

CO・OP再生PET使用
つめかえボトル500ml用

ボトル入り
商品の一例

ボトル入り商品を
順次廃止し、パウチ・
紙パックへシフト

私たちができること

- 繰り返し使えるつめかえ商品を利用する

ION!
クルする
ycle
次のページで
紹介します！

コープデリの
エコ活
［100年後の地球のために］

未来へつなごう

コープデリのエコ活

コープデリは、組合員の皆さんが環境問題を「知る・共有する・やってみる」きっかけづくりとして「コープデリのエコ活」に取り組んでいます。
100年後に美しい地球を残すため、私たちの生活の中で

① CO_2（温室効果ガス）
② 容器包装プラスチック（使い捨て）
③ 食品ロス（廃棄）

を減らすことを目指しています。
コープデリは、「未来へつなごう」のスローガンのもと、SDGsの取り組みを進めています。

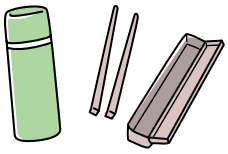
ACTION!

断る

Refuse（リフューズ）

私たちができること

- 買い物の時にはマイバッグを持参する
- マイボトル・マイ箸を持参する



コープの取り組み

コープのお店では、1990年代からマイバッグ持参を呼びかけています。レジ袋の辞退率は86.2%（2021年度）。なお配布しているレジ袋は、植物由来の素材を配合しています。

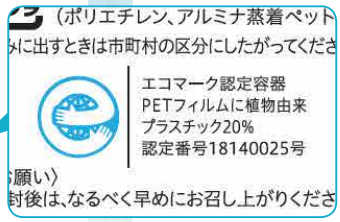
ACTION!

再生可能資源の活用

Renewable（リニューアブル）

私たちができること

- 商品のパッケージを確認して、エコマークがあるものを選ぶ



パッケージ裏面

コープの取り組み

商品のパッケージに、繰り返し栽培できる植物を原料とした「バイオマスプラスチック」を使用しています。石油から作られるプラスチックの一部を植物由来の原料に置き換えることで、石油の使用量を減らすことができます。

ACT
リサイ
Rec

ACTION!

リサイクルする（Recycle）

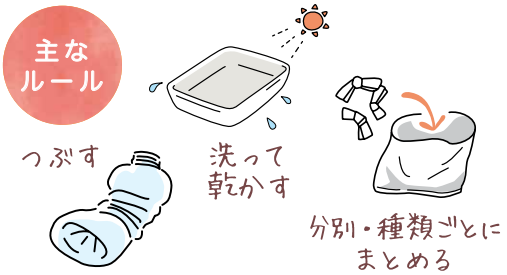
コープデリでは、組合員の皆さんがリサイクルのために出したものを種類別に「資源物」として回収し、コープデリエコセンター（千葉県野田市）や各地の物流センターに集めています。仕分け後にリサイクル工場に運び、新たな原料として再生され、さまざまな商品やパッケージに生まれ変わって、再び組合員の皆さんのもとに届きます。

ルールを守ることでリサイクルへ

プラスチックがリサイクルの旅を経て生まれ変わるためには、洗う、つぶす、分別するなどの「ルール」を守って出すことが大切です。回収されたプラスチックが汚れていたり、ほかのものが混ざっていたりしたら、リサイクルができなくなってしまうからです。一人ひとりがどのようにリサイクルされるのかを知り、ルールを守って出すことで、大きな成果につながります。皆さんのご協力をお願いします。

リサイクルの回収品と
詳しいルールはこちらから

宅配　お店



ペットボトルキャップがお店の買い物カゴとワクチンに

宅配やお店で組合員の皆さんから回収しているペットボトルキャップ。このペットボトルキャップをリサイクルした買い物カゴを、業界で初めてコープみらい・とちぎコープ・コープぐんま・コープながのの一部店舗で導入※。買い物カゴの約30%、1つあたり97個分のペットボトルキャップが使用されています。

またペットボトルキャップをリサイクル資源として売却した利益は、「認定NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）」に寄付。開発途上国の子どもたちへワクチンなどを提供する活動に役立てられています。

※とちぎコープは10月28日より導入

今回の取り組みは、目標14：

海の豊かさを守ろう

につながっています。

Recycle（リサイクル）

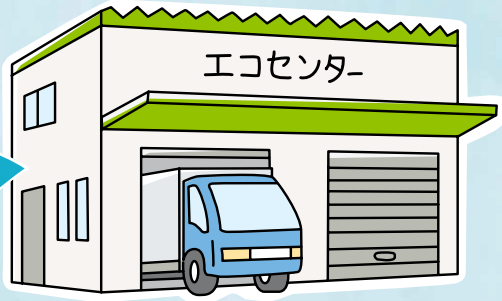
宅配

商品をお届けした時に回収します

宅配の商品お届け時やお店の回収ボックスで資源物を回収します。

お店

お店に来た時に入れてください



コープデリエコセンター

コープデリエコセンターでは、回収した資源物を種類ごとに選別。圧縮して容量を減らし、輸送しやすくします。

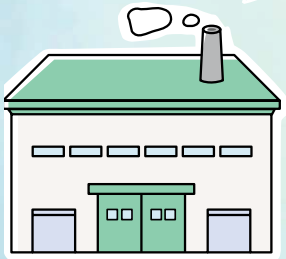
例えばペットボトルは、リサイクルしやすくするため、ラベルや汚れたものなどを取り除いています。▼

選別

資源物ごとに圧縮したもの。容量を減らすことで一度にたくさん運べるようになり、運ぶときのCO_2を減らせます。▶

圧縮

資源物が回収され商品になるまで



リサイクル工場

資源物ごとにそれぞれのリサイクル工場に運び、細かく砕いたり、洗浄したりして新たな原料にします。

商品の製造工場

リサイクル原料を混ぜ、新しい商品やパッケージに生まれ変わります。

商品に生まれ変わって組合員さんのもとへ

商品のパッケージに

たまごパックに

ペットボトルに

食品トレーに

ペットボトルの回収からリサイクルまでを動画で紹介

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs（エスディージーズ）（持続可能な開発目標）」の達成を目指しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS